令和4年10月1日 ※1 (前回公表年月日:令和2年9月20日)

# 職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月	日 <i>7</i>	校長名			所在地	}	
日本医学柔整		平成14年3月11	日奥	田久幸	(住所)	169-0075 東京都新宿区高	田馬場1丁目18番18号	<b></b>	
専門学校 設置者名		設立認可年月	D /4	表者名		03-3208-7741	所在地		
学校法人 敬心		昭和61年4月11		林光俊			田馬場1丁目32番15号		
分野	=3 pri	記定課程名		認定学		03-2307-5311	専門士		高度専門士
医療	医	療専門課程		柔道整復学	科(夜間部	压)	平成26年文部科学7 示第6号	大臣告	1
学科の目的		学校教育法及び「柔·並びに社会福祉に			!規則」に基	でき、「柔道整復的	雨」を養成し、併せて「柔:	道整復師」技術の向	]上をはかり、国民の保
認定年月日	平成26年	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数		講義		演習	実習	実験	実技
3 /=:	夜間	2750		1708		-	180	-	862 時間
生徒総定	Ę	生徒実員	留学生	数(生徒実員の内	車	任教員数	兼任教員数		総教員数
180人		142人		0人		11人	41人		52人
学期制度		]:4月1日~9月30月 ]:10月1日~3月31				成績評価	■成績表: ■成績評価の基準・ 評価の基準:目標の達成的 評価の方法:定期試験・	度を評定し、さらに学習態	態度及び就学状況を重視する
長期休み	■夏	台:4月1日~4月4E ≶:8月7日~8月16 ≶:12月27日~1月 동:3月16日~3月3	日 3日			卒業·進級 条件	卒業要件: 本校所定の全課程を修 進級要件: 学年ごとに修得すべき全ての	了した者には、卒業証書	
学修支援等	■個別村	目談・指導等の対応 任または副担任よ		<b>車絡を入れ状</b> 況	兄等把握	課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランテ 解剖見学実習 ■サークル活動:	ィア・学園祭等の実行委 有	<b>§員会等</b>
就職等の	整形外和 ■就職技 本ヤリア支 ト・進た、1年: だき、1年:	北職先、業界等(令 は、介護関連施設、 は導内容 を業力ウンセラーの資 に援センターを設置。入いったキャリア相談を いったキャリア相談明会 はのの就職合同説明会 生から卒業生までを対 こう各種プログラムを実	接骨院格を有し、臨床科学前の学生から 固別に行っている。 を実施。各の学 象に実施。入の	経験を持つ教員を ら卒業生まで就職 5。 D院ほどの企業に	は・アルバイ □参加いた	主な学修成果	資格·検定名 柔道整復師	度卒業者に関する令和45 種別 受験者数 ② 24人 ② 24人 ② 24人 ② 25 日時に取得可能な5	年5月1日時点の情報) 数 合格者数 17人 ~③のいずれかに該当するか もの
状況※2	■卒業ネ ■就職ネ ■就職ネ	<b>希望者数</b>	2	25 23 21	人人人	(資格·検定等) *3	■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒	業生のコンテスト入賞	状況等
	■就職□	室 : 皆に占める就職者( : 也	9 <sup>.</sup> の割合 8	1.3 34 4年5月1日時点	%				
中途退学 の現状	令和4年: ●中途说 進路変襲 ■中退队 ①副担任 ②定期	4月1日時点におい 3月31日時点におい 3月31日時点におい 退学の主な理由 更、経済的理由等 方止・中退者支援の 任制度を導入し、複 面談のほか、遅刻・	で、在学者1 のための取組 夏数の教職員 や欠席状況、	4名(令和3年 11名(令和4年 11名(令和接 11名 11名 11名 11名 11名 11名 11名 11名 11名 11	E3月31日2 制を構築U まえ都度	卒業者を含む) 、学校生活をサ 面談を実施		0 %	
経済的支援 制度	※有の場特待生力 事門	由自の奨学金・授美会、制度内容を記入 人試制度、W資格制度、W資格制度、W資格制度、W資格制 と践教育訓練給付象の場合、前年度の終	利度、スポーツ :	ノ・フィットネス <sup>・</sup>	で働く人 <i>0</i>	有 のための学費減免 給付対象	制度 等		
第三者による 学校評価	※有の場	D評価機関等から 合、例えば以下につい 価団体: 私立専門 研究機構	<sub>て任意記載</sub> 学校等評価	受審年月:	平成27年	有	評価結果を掲載した ホームページURL	https://www.nik	nonisen.ac.jp/school/e
当該学科の ホームページ URL	https://	www.nihonisen.ac.j	ip/						

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

世の中から求められる医療人(柔道整復師)をより多く輩出するため、現場の実情を正確に把握し学校教育の中に組み

込まなくてはいけない。そのためにも企業等との連携は必需である。企業等には、現場で感じること・世の中(患者様)が求めているであるうことを、学校に伝えることを求める。そして、それらの意見を十分にいかし、カリキュラムの改善等の教育課程の編成を定期的に行

- (2)教育課程編成委員会等の位置付け
- ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学校運営に関する事項の最終議決機関である経営会議の下部機関として委員会を設置している。

教育課程のカリキュラムの編成、実施及び改善に関する事項については教務委員会にて検討し、関連分野の企業・団体等との連携・ 協働を高め、助言を得るための機関として教育課程編成委員会を置いている。企業等の外部委員による意見を有効に活用するため、 教職員委員は、学校長、副校長、学科長、事務局長など幹部教職員と、各科から選出されている教務委員会委員が兼務し委員会を構成している。

教育課程編成委員会での意見、提言は教務委員会において検討され、各科課程・科によるカリキュラム策定への参考情報として検討

#### (3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年10月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
伊藤 逑史	公益社団法人 東京都柔道整復師会	令和3年9月1日~令和5年8月31日	1
小泉 利幸	三進興産株式会社	令和3年9月1日~令和5年8月31日	3
佐藤 和伸	佐藤代田整骨院	令和3年9月1日~令和5年8月31日	13
加瀬 剛	キネシオ接骨院	令和3年9月1日~令和5年8月31日	3
道狭 浩子	ひろこ整骨治療室	令和3年9月1日~令和5年8月31日	3
小林 篤史	株式会社ボディスプラウト	令和4年9月1日~令和5年8月31日	3
松井 薫	乃木坂 Matsui Physical Design Lab.	令和4年9月1日~令和5年8月31日	3

- ※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。
  - (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)
    - ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
    - ②学会や学術機関等の有識者
    - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員
- (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
- (年間の開催数及び開催時期)
- 年2回 (9月、2月)
- (開催日時(実績))
- 第1回 令和4年9月27日 14:00~15:00
- 第2回 令和4年2月21日 14:00~15:00
- (5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
- ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
- 柔道整復師として働いていくうえで身に付けておくべきことについて、意見交換を行い、今後の検討課題とした。
- ①先を見通す力 ②答えを聞き出す力 ③仕事に対する姿勢
- 2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係
- (1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
- 企業等には、最先端の現場臨床を行う優秀な医療人(治療家)や、高度な技術を身に付けた医療人(治療家)が治療を 行っている。そのような企業等が持つ技術・知識・経験等を活用し、実践的かつ現場に即した専門的な職業教育を行うことをめざす。
- (2)実習・演習等における企業等との連携内容
- ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

演習授業 臨床実習事前教育及び実習後のフォロー教育を実施、企業と連携し柔整関係業界人による実技、演習関連授業を実施、臨床知識と技術を深める実践的な職業教育を行っている。

#### (3)具体的な連携の例

_			
I	科目名	科 目 概 要	連携企業等
	臨床実習1		千不シオ接骨院   大幸接骨院   黄海接骨院 他
	臨床実習2	医療従事者としての心構え、臨床現場で必要となるインソールの知識・技術の確認、講義科目の知識との関連性、運営関係に関する知識、患者とのコミュニケーション能力について理解し、自ら考えることができる。	三進興産株式会社
	臨床実習3	医療従事者としての心構え、整形外科で必要となる知識・技術の確認、講義科目の知識との関連性、運営関係に関する知識、患者とのコミュニケーション能力について理解し、自ら考えることができる。	中杉通り整形外科
	臨床総合柔道整復学1	柔道整復術に必要な知識と技能を身に付ける。1年次に学ぶ知識・技術を取り入れ、柔道整復で取り扱う社会的要請の多様化に対応できる能力を養い、理解し、説明できるようにする。	きりん鍼灸整骨院 こころ整骨院

- 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係
- (1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
- ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教職員研修に関して、対象を初任者研修、中堅教員研修、熟練教員研修、管理職と入職年数によって分類し、分野を専 門領域(臨床)、教授法、組織マネージメントと分けて、研修内容を細則によって定めている。

柔道整復学科では教員に必要な専門分野における知識・技術の向上に関して、日本柔道整復接骨医学会への参加を 認めている。毎年、同医学会が主催する学術大会に発表者を含め、学科教員が全員参加している。

また、指導力の向上に関しては、全国柔道整復学校協会主催の教員研修会の参加を義務付けている。

# (2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

主催 : 公益社団法人 全国柔道整復学校協会 研修名: 柔道整復学校協会 教員研修会

期間: 2022年9月18日(日)19日(月) 対象 : 養成施設 教職員

柔道整復が社会に果たす役割 内容

②指導力の修得・向上のための研修等

連携企業等: 東京メンタルヘルス株式会社 研修名: 学生対応スキル向上研修会

期間: 対象: 全教職員 2021年7月28日(水)

学生対応時のポイント(主にコミュニケーション技法や共感的対話について) 内容

教員向け研修 連携企業等: 株式会社 Assatte 研修名:

対象: 全教職員 期間: 2022年1月23日(日)、3月6日(日)

自学自習を教学の柱にする意義を理解し、必要な技術を把握する 内容

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 日本柔道整復接骨医学会 学術大会 主催:一般社団法人 日本柔道整復接骨医学会

期間: 2022年12月3日(土)4日(日) 対象:専任教員

テーマ 臨床と学術の融合~Shoulder ver.~

- 4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。 また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係
- (1)学校関係者評価の基本方針

本校は、学校関係評価を行うことにより、学生がより良い教育活動や環境を受けられるように学校運営の改善と発展を目指 すとともに、学校関係者評価の結果をPDCAサイクルに基づき詳細に分析し・検討し、組織的かつ継続的に学校運営の改善 に取り組むことを学校関係者評価の基本方針としている。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念•目標	基準1 教育理念・目標
(2)学校運営	基準2 学校運営
(3)教育活動	基準3 教育活動
(4)学修成果	基準4 学修成果
(5)学生支援	基準5 学生支援
(6)教育環境	基準6 教育環境
(7)学生の受入れ募集	基準7 学生の募集と受入れ
(8)財務	基準8 財務
(9)法令等の遵守	基準9 法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	基準10 社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	

<sup>※(10)</sup>及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校経営重要指標のうち、中退抑止に向けた欠席者へのアプローチや国試合格率が伸び悩んでいる原因を共有し、対策し ていくことを確認している。

また、卒後の学習支援について学校の方針を共有した。

#### (4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
伊藤 逑史	公益社団法人 東京都柔道整復師会	令和3年9月1日~令和5年8月31日	業界関係者
小泉 利幸	三進興産株式会社	令和3年9月1日~令和5年8月31日	業界関係者
佐藤 和伸	佐藤代田整骨院	令和3年9月1日~令和5年8月31日	業界関係者
加瀬 剛	キネシオ接骨院	令和3年9月1日~令和5年8月31日	卒業生
道狭 浩子	ひろこ整骨治療室	令和3年9月1日~令和5年8月31日	卒業生
小林 篤史	株式会社ボディスプラウト	令和4年9月1日~令和5年8月31日	業界関係者
松井 薫	乃木坂 Matsui Physical Design Lab.	令和4年9月1日~令和5年8月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。 (例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)<u>学校関係者評価結果の公表方法・公表時期</u>

ホームページ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他(

))

URL: https://www.nihonisen.ac.jp/

- 5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に 関する情報を提供していること。」関係
- (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校は、企業・業界関係者に対して実践的職業教育をはじめとした教育活動、その他の学校運営状況等について適切な情報を提供することにより、相互間の対話の促進、信頼関係の構築、企業との連携による臨床実習、就職指導など企業連携による活動の充実や、業界のニーズを踏まえた教育方針・教育内容・教育方法の改善に努めることを情報定提供の基本方針としている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	1.学校の概要、目標及び計画
(2)各学科等の教育	2.各学科等の教育
(3)教職員	3.教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	4.キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	5.様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	6.学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	7.学生納付金·修学支援
(8)学校の財務	敬心学園財務情報
[(9)学校評価	自己評価報告書、第三者評価報告書

(3)情報提供方法

広報誌等の刊行物 ・ その他(

))

URL: https://www.nihonisen.ac.jp/

# 授業科目等の概要

		医療 分类	]課程柔道整復学科(夜間部))					授	業方	法丨	場	所【	教	昌	
	必	選択必	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講	演習	実験	校	校	専	兼	企業等との連携
1	0		人体のしくみ1	人体のしくみについて基礎知識を身に付ける。専門基礎・専門分野の基盤を身に付ける。人体を構成する細胞系、運動系、脈管系等のしくみや働き、役割を理解し、説明できるようにする。	1 · 前	42	2	0			0			0	
2	0		人体のしくみ 2	人体のしくみについて基礎知識を身に付ける。専門基礎・専門分野の基盤を身に付ける。主に、生命維持に必要な血液循環、内臓機能等について理解し、説明できるようにする。	1 · 後	42	2	0			0			0	
3	0		栄養学1	身体の構成や営みに必要な栄養と、食に関する基礎知識を身に付ける。 栄養素の種類や働きを学習し、栄養と代謝に関わる生理的機能の理解を深める。	1 · 前	42	2	0			0			0	
4	0		栄養学2	身体の構成や営みに必要な栄養源を摂取して代謝し、生命活動を営むしくみの基礎知識を学習し、専門基礎・専門分野の基盤を身に付ける。 主に、代謝、消化吸収、体温等のしくみについて理解し、説明できるようにする。	1 · 後	42	2	0			0			0	
5	0		病気の成り立ち	疾病に対する基礎知識を身に付ける。 病気の発症に伴って人体にどのような変化が起きるのかを理解する。 主に、細胞から組織レベルでの障害、適応について理解し、説明できるようにする。	2 · 前	42	2	0			0			0	
6	0		ケアコミュニケーション	国際化及び情報化社会を意識し、医療・介護・福祉の現場で求められるケアコミュニケーション能力の基礎を身につける。 生命倫理、人の尊厳、障害の基礎知識、生活支援等を理解し、福祉分野における医療人の在り方について説明できるようにする。	1 · 前	42	2	0			0			0	
7	0		柔道入門 1	「精力善用」「自他共栄」の精神を柔道を通じて学ぶ。柔道の素養の基礎を身に付ける。 柔道者の着方、礼法、受け身、投技の技能を習得する。	2 · 前	42	1			0	0			0	
8	0		柔道入門 2	「精力善用」「自他共栄」の精神を柔道を通じて学ぶ。柔道の素養の基礎を身に付ける。 礼法、受け身、投技の技能を向上する。	2 · 後	42	1			0	0			0	
9	0		解剖学1	人体の構造・機能に関する知識を身に付ける。 解剖学的用語の理解と説明ができるようにする。 主に運動器系の筋の種類や構造の特徴、またその役割等を総合的に理解し、説明できるようにする。	1 · 前	42	2	0			0		0		
10	0		解剖学 2	人体の構造・機能に関する知識を身に付ける。 解剖学的用語の理解と説明ができるようにする。 主に内臓系(消化器、内分泌器、神経系等)について、解剖学的構造を中心に生理学的 な仕組みを踏まえ、理解と説明ができるようにする。	2 · 前	42	2	0			0			0	
11	0		生理学1	人体の構造・機能に関する知識を身に付ける。 解剖学的用語の理解と説明ができるようにする。 主に運動器の構造と機能の特徴、作用を理解し、説明できるようにする。また、細胞、 血液についての機能、役割等も系統立てで理解し、説明できるようにする。	1 · 前	42	2	0			0			0	
12	0		生理学 2	人体の構造・機能に関する知識を身に付ける。 解剖学的用語の理解と説明ができるようにする。 主に内臓系(呼吸器、循環器、泌尿器、生殖器等)について、解剖学的構造を中心に生 理学的な仕組みを踏まえ、理解と説明ができるようにする。	1 · 後	42	2	0			0			0	
13	0		生理学3	人体の構造・機能に関する知識を身に付ける。 解剖学的用語の理解と説明ができるようにする。 主に神経系(心身の発達を含む)、感覚器、内分泌系等について、解剖学的構造を中心に 生理学的な仕組みを踏まえ、系統立てて理解し、説明ができるようにする。	2 · 前	42	2	0			0			0	
14	0		生理学4	人体の構造・機能に関する知識を身に付ける。 解剖学的用語の理解と説明ができるようにする。 主に成長期の身体の発育、発達及び競技者、高齢者の生理学的特徴・変化について理解 と説明ができるようにする。	2 · 後	22	1	0			0			0	
15	0		運動学 1	人体の構造・機能に関する知識を身に付ける。 解剖学的用語の理解と説明ができるようにする。 主に運動器の機能について、系統立てて理解し、説明ができるようにする。	1 • 後	42	2	0			0			0	
16	0		運動学 2	人体の構造・機能に関する知識を身に付ける。 解剖学的用語の理解と説明ができるようにする。 主に人間の運動にかかわる身体の機能と構造についての基本的な知識を理解し、説明が できるようにする。心身の発達に関わる運動発達も理解し、説明が出来るようにする	2 · 前	42	2	0			0			0	
17	0		一般臨床医学1	疾病の基礎知識とその障害について字習する。 「疾病」のメカニズムとそれに伴う細胞・組織レベルの障害を、問診・視診・触診・検 査法等という観点から、理解して説明できるようにする。 また、内臓器・血液疾患等における病因、分類、症状、治療を学び、それに伴う細胞・ 組織レベルの病能までか、理解して説明できるようにする	2 · 前	42	2	0			0			0	
18	0		一般臨床医学 2	疾病の基礎知識とその障害について学習する。 内臓器・血液疾患、神経疾患、膠原病等における病因、分類、症状、治療を学び、それ に伴う細胞・組織レベルの病態までを、理解して説明できるようにする。	2 · 後	42	2	0			0			0	
19	0		リハビリテーション1	リハビリテーションの具体像を把握し、基礎知識を身に付ける。 リハビリテーションの概要、基礎知識について理解し、知識を深める。	2 · 後	20	1	0			0			0	

20	0		リハビリテーション2	リハビリテーションの具体像を把握し、基礎知識を身に付ける。 リハビリテーションの治療、関連職種について理解し、知識を深めることができる。	3	40	2	0	0		0
21	0		外科学	疾病の基礎知識とその障害について学習する。 外科学の基礎となる総論的な事項とともに、日常臨床の場において遭遇することの多い 代表的な外科疾患等について理解し、適切な病態の把握ができるようにする。	前 2	42	2	0	0		0
22	0		整形外科学	展病の基礎知識とその障害について学習する。 運動器全体の知識すなわち整形外科学全般についての基本的な知識を学び、日常臨床の 場において遭遇することの多い代表的な整形外科疾患等について理解し、適切な病態の	後 2 . 後	42	2	0	0		0
23	0		運動器の診断	把握ができるようにする。  柔道整復術の適応について学習する。 日常臨床の場において遭遇することの多い疾患、損傷、外傷等について、適正な病態把握ができ、同時に柔道整復術の適応であるか考えることができるようにする。	3 • 前	40	1	0	0		0
24	0		柔道1	柔道の基本技術を学ぶ。 「精力善用」「自他共栄」の精神を柔道を通じて学ぶ。礼法、受け身、投げ技、投の形を習得する。	3 • 通年	80	2		0		0
25	0		衛生学・公衆衛生学	地域包括ケアシステムの一端を担う専門職として、地域における関係諸機関との調整及 び教育的役割を担う能力を養う為に、人口統計、国民の健康、予防医学、環境衛生な ど、幅広く国民福祉にかかわる事柄を学習する。	3 前	40	2	0	0		0
26	0		医学教養	主に職業倫理について学ぶ。 地域における関係諸機関との調整及び教育的役割を担える医療従事者としての心構え、 仕事内容を理解し、医療人としてのモラルを、自らで考え行動することができるように する。	3 • 後	20	1	0	0		0
27	0		関係法規1	柔道整復師法ならびに、法について学習する。 法の意義、体系等を学び、柔道整復師法の意義・定義・免許関係の規定を知得できる。 業務、施術所、広告に係る規制について理解することができる。	3 • 前	40	2	0	0		0
28	0		関係法規2	柔道整復師法ならびに、法について学習する。 柔道整復師法及び柔道整復師以外の医療関係法について理解することができる。 柔道整復師法及び医療法、その他関係法規、社会保険、社会福祉について理解することができる。	3 · 後	20	1	0	0		0
29	0		社会保障制度	社会保障制度について基礎知識を身に付ける。 衛生行政と保健医療の制度等について理解し、考えることができる。	3 · 後	20	1	0	0		0
30	0		基礎柔道整復学1	柔道整復の基礎知識を身に付ける。 柔道整復術の概要、柔道整復師の業について理解することができる。今後の柔道整復学 の基盤となる「損傷」について全体像を把握し、理解することができる。骨や関節等の 損傷における定義、種類、分類、症状について理解し、説明できるようにする。	1 • 前	42	2	0	0		0
31	0		基礎柔道整復学2	柔道整復の基礎知識を身に付ける。 主に、筋、腱、末梢神経等の軟部組織の損傷における損傷程度、種類、分類、症状について理解し、説明できるようにする。また、臨床の場において業務を正しく遂行するため為の知識を理解し、説明できるようにする。	1 · 前	42	2	0	0		0
32	0		基礎柔道整復学3	柔道整復の基礎知識を身に付ける。 損傷における評価、判断、治療法等(外傷保存療法の経過及び治癒の判定を含む。)に ついて理解し、説明できるようにする。	1 • 後	42	2	0	0		0
33	0		基礎柔道整復学4	柔道整復の基礎知識を身に付ける。 「スポーツコンディショニング」等の観点から、運動器の作用やはたらきを学習し、理解することができる。	1 • 前	42	2	0	0	0	
34	0		基礎柔道整復学5	柔道整復の基礎知識を身に付ける。 「外傷予防」等の観点から、運動器の作用やはたらきを学習し、理解することができる。	1 · 後	42	2	0	0	0	
35	0		柔道整復学1	柔道整復の臨床理論の知識を身に付ける。 鎖骨部・肩関節部・上腕部等の骨折、脱臼、軟部組織損傷について理解し、発生機序、 特徴、症状、治療法等を説明できるようにする。	1 . 後	42	2	0	0		0
36	0		柔道整復学2	柔道整復の臨床理論の知識を身に付ける。 肘関節部・前腕部等の骨折、脱臼、軟部組織損傷について理解し、発生機序、特徴、症 状、治療法等を説明できるようにする。	1 · 後	42	2	0	0	0	
37	0		柔道整復学3	柔道整復の臨床理論の知識を身に付ける。 手関節部、手根部、手・指部等の骨折、脱臼、軟部組織損傷について理解し、発生機 序、特徴、症状、治療法等を説明できるようにする。	2 • 前	42	2	0	0	0	
38	0		柔道整復学4	柔道整復の臨床理論の知識を身に付ける。 頸部、胸・背部、腰部等の骨折、脱臼、軟部組織損傷について理解し、発生機序、特 徴、症状、治療法等を説明できるようにする。	2 • 前	42	2	0	0	0	
39	0		柔道整復学5	柔道整復の臨床理論の知識を身に付ける。 骨盤部、股関節部、大腿部、膝関節部等の骨折、脱臼、軟部組織損傷について理解し、 発生機序、特徴、症状、治療法等を説明できるようにする。	2 · 後	42	2	0	0	0	
40	0		柔道整復学6	柔道整復の臨床理論の知識を身に付ける。 下腿部、足関節部、足根部、足・趾部等の骨折、脱臼、軟部組織損傷について理解し、 発生機序、特徴、症状、治療法等を説明できるようにする。	2 · 後	20	1	0	0		0
41	0		柔道整復学7	柔道整復の臨床理論の知識を身に付ける。 頭部・顔面部等の骨折、脱臼、軟部組織損傷について理解し、発生機序、特徴、症状、 治療法等を説明できるようにする。	2 · 後	22	1	0	0		0

42	0	臨床総合柔道整復学1	柔道整復術に必要な知識と技能を身に付ける。1年次に学ぶ知識・技術を取り入れ、柔道整復で取り扱う社会的要請の多様化に対応できる能力を養い、理解し、説明できるようにする。	1 • 前	30	1	0		0		0		0
43	0	臨床総合柔道整復学2	柔道整復術に必要な知識と技能を身に付ける。1・2年次に学ぶ知識・技術を取り入れ、柔道整復で取り扱う社会的要請の多様化に対応できる能力を 養い、理解し、説明できるようにする。	2 · 前	30	1	0		0		0		
44	0	臨床総合柔道整復学3	柔道整復術に必要な知識と技能を身に付ける。これまでに学んだ知識・技術を取り入れ、柔道整復で取り扱う社会的要請の多様化に対応できる能力を 養い、理解し、説明できるようにする。	3 · 通年	210	9	0		0		0		
45	0	スポーツコンディショニン グ1	柔道整復の基礎技術を用いたスポーツコンディショニングの目的・知識・技術を身に付ける。 主にテーピング固定や各種手技・運動療法について学ぶ。	1 • 前	42	1		0	0		0		
46	0	スポーツコンディショニン グ2	柔道整復の基礎技術を用いたスポーツコンディショニングの目的・知識・技術を身に付ける。 各部位に対する外傷の保存療法、物理療法の取扱い方法等を理解することができる。	1 . 後	42	1		0	0		0		
47	0	包帯固定学	柔道整復の基礎技術を身に付ける。 主に、固定法における目的、役割、固定材料の種類を理解し、基本包帯法を巻くことができる。 「臨床実習前施術試験等」として、実習における態度・マナーを身に付けることができる。固定材料等の取扱い方を理解することができる。	1 • 後	42	1		0	0		0		
48	0	外傷予防	る。 固定的付字の取扱が力を生併することができる。 来直整度の基礎技術を身に付ける。 主に、競技者の特徴やトレーナーとしての役割、また、日常臨床の場において遭遇する ことの多い代表的な外傷等について学び、外傷予防技術の基礎を理解し、実施すること ができる。	1 • 前	42	1		0	0		0		
49	0	柔道整復実技1	柔道整復の基礎技術を身に付ける。 主に、上肢(鎖骨、上腕骨)骨折の整復法、固定法について理解し、実施することができる。	2 · 前	42	1		0	0			0	
50	0	柔道整復実技2	柔道整復の基礎技術を身に付ける。 主に、上肢 (前腕骨、手の骨) 骨折の整復法、固定法について理解し、実施することができる。	2 · 前	42	1		0	0			0	
51	0	柔道整復実技3	柔道整復の基礎技術を身に付ける。 主に、下肢の骨折における整復法、固定法について理解し、実施することができる。	2 • 後	42	1		0	0			0	
52	0	柔道整復実技4	柔道整復の基礎技術を身に付ける。 主に、上肢・下肢の脱臼(顎関節脱臼を含む)における整復法、固定法について理解し、 実施することができる。	2 · 後	42	1		0	0			0	
53	0	柔道整復実技 5	柔道整復の基礎技術を身に付ける。 主に、上肢・下肢の軟部組織損傷における評価、整復法、固定法について理解し、実施 することができる。	2 · 後	42	1		0	0			0	
54	0	柔道整復実技 6	柔道整復の基礎技術を身に付ける。 主に鑑別診断の観点より、骨折における問診、視診、触診、各種検査法を理解し、評価、治療法を考えることができる。	3 · 通年	80	2		0	0		0		
55	0	柔道整復実技 7	柔道整復の基礎技術を身に付ける。 主に鑑別診断の観点より、脱臼における問診、視診、触診、各種検査法を理解し、評価、治療法を考えることができる。	3 • 通 年	80	2		0	0		0		
56	0	柔道整復実技8	柔道整復の基礎技術を身に付ける。 主に鑑別診断の観点より、軟部組織損傷における問診、視診、触診、各種検査法を理解 し、評価、治療法を考えることができる。	3 · 通年	80	2		0	0		0		
57	0	柔道整復実技 9	柔道整復の基礎技術を身に付ける。 主に、高齢者の特徴や機能訓練指導員としての役割について理解し、外傷予防等に対す る技術を実施することができる。	3 • 前	40	1		0	0		0		
58	0	柔道整復実技10	柔道整復の基礎技術を身に付ける。 主に鑑別診断の観点より、上肢・下肢の損傷における評価、医用画像を含めた臨床的判 定を理解し、考えることができる。	3 • 前	40	1		0	0		0		
59	0	臨床実習 1	医療従事者としての心構え、臨床現場で必要となる知識・技術の確認、講義科目の知識 との関連性、運営関係に関する知識、患者とのコミュニケーション能力について理解 し、自ら考えることができる。	1 · 通 年	90	2		0	0	0	0		0
60	0	臨床実習 2	柔道整復師としての臨床の実践能力、保健のしくみに関する知識、患者との適切な対 応、コミュニケーション能力等について理解し、考え、行動することができる。	2 · 通 年	90	2		0		0			0
		合計	60	1 科	担		105 (2)	(50)	単位	ī (Ì	⊉位	時間	)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件: 本校所定の課程を修了	1 学年の学期区分	2 期
履修方法: 授業時数の3分の2以上の出席とする	1 学期の授業期間	21 週

<sup>(</sup>留意事項)
1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。